

丹波市

七日市遺跡(IV)

(国)175号特定交通安全施設等整備事業に伴う発掘調査報告書

平成24(2012)年3月

兵庫県教育委員会

丹波市

七日市遺跡(IV)

(国)175号特定交通安全施設等整備事業に伴う発掘調査報告書

平成24(2012)年3月

兵庫県教育委員会

例 言

- 1 本書は、兵庫県丹波市春日町七日市に所在する、七日市遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 (国) 175号特定交通安全施設等整備事業に関して、兵庫県丹波県民局長（柏原土木事務所）の依頼を受け、平成16年度に旧兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所（現兵庫県立考古博物館）が発掘調査を実施し、平成22・23年度には整理作業を実施した。
- 3 本書の編集・執筆は同館職員の藤田淳・山本誠が行い、非常勤嘱託職員杉村明美の協力を得た。
- 4 遺物写真撮影にあたっては、株地域文化財研究所と委託契約を交わし、兵庫県立考古博物館において実施した。
- 5 本書で使用した方位は磁北であり、水準は東京湾平均水準（T.P.）を使用した。

本文目次

1 章 遺跡の位置と調査に至る経過・経緯	1
2 章 本発掘調査の方法	3
3 章 本発掘調査（弥生時代）の成果	6
1 節 遺構	
2 節 遺物	
4 章 本発掘調査（旧石器時代）の成果	9
1 節 出土状況	
2 節 遺物	
5 章 まとめ	12

挿図目次

図 1 七日市遺跡と周辺の遺跡	2
図 2 調査区の位置	4
図 3 調査区平面図・断面図	5
図 4 弥生時代の遺構	7
図 5 弥生時代の遺物	8
図 6 旧石器チャート原石	9
図 7 旧石器の出土状況	10
図 8 旧石器時代の遺物	11

表目次

表 1 遺物観察表 1（弥生時代）	8
表 2 遺物観察表 2（旧石器時代）	12

写真図版目次

- 写真図版 1 調査前（東から）
1～7区 全景（東から）
- 写真図版 2 1～7区 弥生時代の調査 全景（西から）
- 写真図版 3 1区 S X 0 1 木棺検出（南西から）
1区 S X 0 1 木棺完掘（南西から）
- 写真図版 4 1区 S K 0 1 断面（東から）
4区 S D 0 5 検出（南から）
- 写真図版 5 3区 S D 0 3（南から）
3区 S D 0 3 弥生土器（P 1・P 2 西から）
- 写真図版 6 8・9区 全景（北東から）
S X 0 2 木棺完掘（南東から）
- 写真図版 7 10区 S H 0 1 検出（東から）
10区 S K 0 3 検出（南から）
- 写真図版 8 1区 旧石器出土（東から）
1区 旧石器出土（西から）
- 写真図版 9 1区 旧石器出土（西から）
1区 旧石器出土（北西から）
- 写真図版 10 1区 旧石器出土（報告Na 0 1 3・0 1 4 北から）
1区 旧石器出土第2次（東から）
- 写真図版 11 8区 旧石器時代調査完掘（東から）
4区 旧石器時代調査完掘（北東から）
- 写真図版 12 T P 0 3 土層断面（北から）
T P 0 5 旧石器出土（西から）
- 写真図版 13 弥生時代の遺物 1
- 写真図版 14 弥生時代の遺物 2
- 写真図版 15 弥生時代の遺物 3
- 写真図版 16 旧石器時代の遺物

1章 遺跡の位置と調査に至る経過・経緯

七日市遺跡は昭和55年以降、周辺のは場整備事業や近畿自動車道舞鶴線（現舞鶴若狭自動車道）建設、北近畿豊岡自動車道建設などに伴って広範囲の発掘調査が行われた。その結果、県下でも有数の規模をもつ旧石器時代・弥生時代～平安時代の遺跡であることが判明している。

春日インターチェンジを起点とする北近畿豊岡自動車道は、平成18年度の部分開通を目指して工事が進められた。それに合わせて、春日町（現丹波市）と丹波県民局柏原土木事務所によって春日インターチェンジ周辺の活性化施設整備計画（春日町道の駅事業）が策定された。この事業は「道の駅」、「地域振興施設」、「遺跡公園」、「町道改良」からなり、事業用地は春日インターチェンジ北側から国道175号線までの27,000m²以上に及ぶ。

今回の調査は、このうち兵庫県が事業主体となる道の駅関連事業の一つ、国道175号線の拡幅工事にともなうもので、兵庫県丹波県民局長からの平成16年9月22日付「丹波（柏原）第1522号の依頼にもとづいて調査を実施した。

出土品整理作業は、同平成22年3月4日付「丹波（丹土）第1815号および平成23年3月10日付「丹波（丹土）第1841号に基づき実施した。

本発掘調査（遺跡調査番号2004215）

平成16年9月27日～10月25日・11月16日

兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

調査第3班 藤田 淳

調査第2班 池田征弘

出土品整理作業

平成22年4月31日～平成23年4月1日

兵庫県立考古博物館

埋蔵文化財調査部整理保存課

事務担当：村上泰樹・篠宮正・宮嶋典美

作業担当：岡田章一・山本誠・岡本一秀

家光和子・小林陽子

眞子ふさ恵・三好綾子・奥野政子・藤尾裕子

松本嘉子・古谷章子

平成23年4月1日～平成24年3月31日

兵庫県立考古博物館

埋蔵文化財調査部整理保存課

事務担当：村上泰樹・篠宮正・宮嶋典美

作業担当：山本誠・深江英憲・岡本一秀

杉村明美・古谷章子・有田達香・河上智晴・坂東知奈

友久伸子・佐伯純子

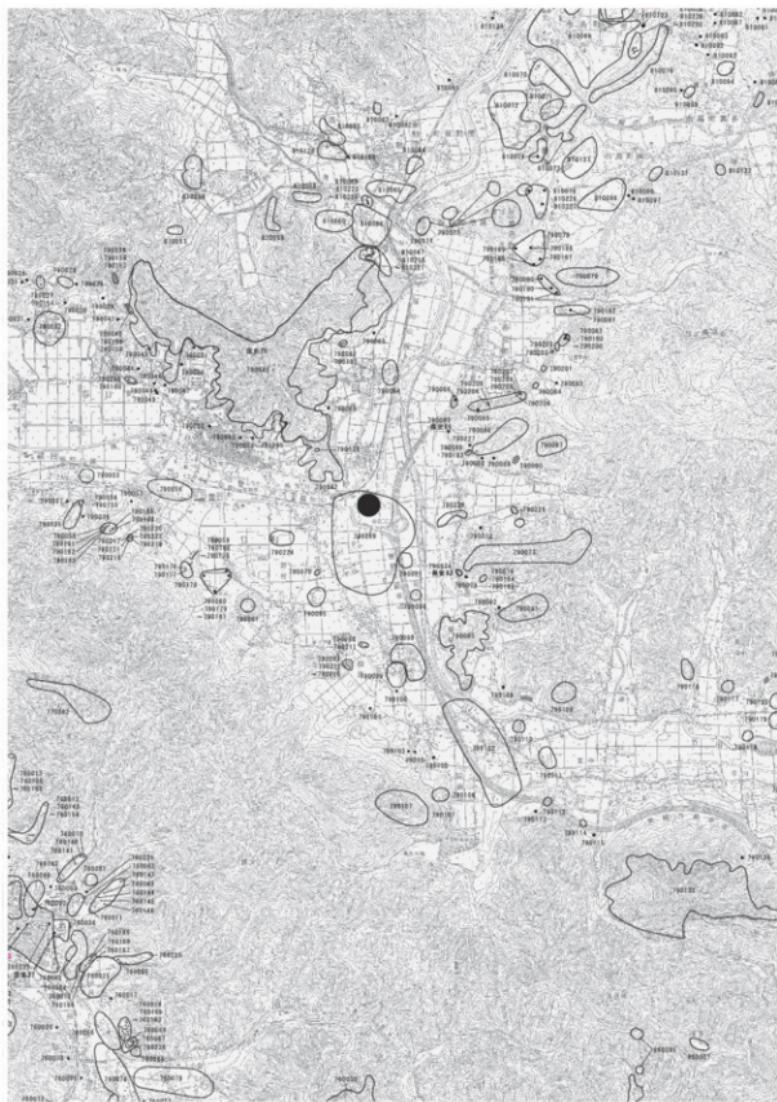


図1 七日市遺跡と周辺の遺跡

2章 本発掘調査の方法

「春日町道の駅事業」に伴う七日市遺跡の取り扱いに関しては、平成16年1月28日に行われた柏原土木事務所、春日町（現丹波市）、氷上郡教育委員会（現丹波市教育委員会）、文化財室（現社会教育課文化財室）、埋蔵文化財調査事務所（現県立考古博物館）の担当者による協議により、「工事によって遺構面が掘削により損壊を受ける範囲についてのみ遺構を全掘し、掘削による損壊が及ばない範囲の遺構面は地中に保存すること」が確認された。したがって、今回の調査においても、工事による掘削深度に応じて、弥生時代の遺構上面の検出にとどめた部分、弥生時代の遺構のみ調査した部分、旧石器時代の堆積物であるAT火山灰下位の灰白色シルト層まで調査を行った部分と、状況に応じた調査方法を採用した。

今回の調査位置は国道175号線と町道（現市道）棚原七日市線との交差点の東側にある。工事は、現在の西行き車線側の歩道の一部を車道に変え、南側に新たな歩道を設けるというもので、新たな歩道の南側に設置される道路側溝部分と車道に変更される現歩道部分が調査対象地となる。現歩道部分は平成元年に交通事故防止対策工事に伴い発掘調査を行い、発掘調査報告書も刊行されている（『七日遺跡（II）』兵庫県文化財調査報告書第86冊 平成2年）が、西端の一部に未調査部分が残されていたものである。

七日市遺跡では、耕土直下のクロボク漸移層あるいは土壌化したAT層上面が弥生時代の遺構面となっており、AT層より下位の灰白色シルト層中には旧石器時代の文化層が存在する。

調査は、重機によって耕土直下まで掘削し、その後、人力によってまず弥生時代の遺構検出と掘削を行った。弥生時代の遺構は調査区内のはば全域に広がりをみせた。

10m間隔で区分けした1区～10区までのうち、10区のみは遺構検出でとどめたが、1区～9区の遺構は完掘した。なお、10区南半は以前の歩道の工事等ですでに掘削され、遺構面は遺存していなかった。

旧石器時代の調査については、1区で旧石器の出土が見られたため、灰白色シルト層の掘削を行い、石器ブロックを検出した。2～7区ではまず、5mごとに幅1m試掘を行った（TP1～10）。このうち旧石器が出土したTP5周辺のみ灰白色シルト層の掘削を行ったが、石器ブロックは検出されなかった。8区から9区にかけてはAT火山灰層が次第に厚くなり、灰白色シルト層上面までの深度が深くなっている。1区に近い8区も石器ブロックの広がりが予想されたため灰白色シルト層の掘削を行ったが、2点の石器が単独で出土したにとどまった。文化層はさらに下位に埋没している可能性がある。9区は工事による掘削が灰白色シルト層までは及ばないため旧石器を対象とした調査は行なわなかった。

なお、1区の石器ブロック周辺では、微細な石器を検出するため、水洗選別用の土壤を採取した。

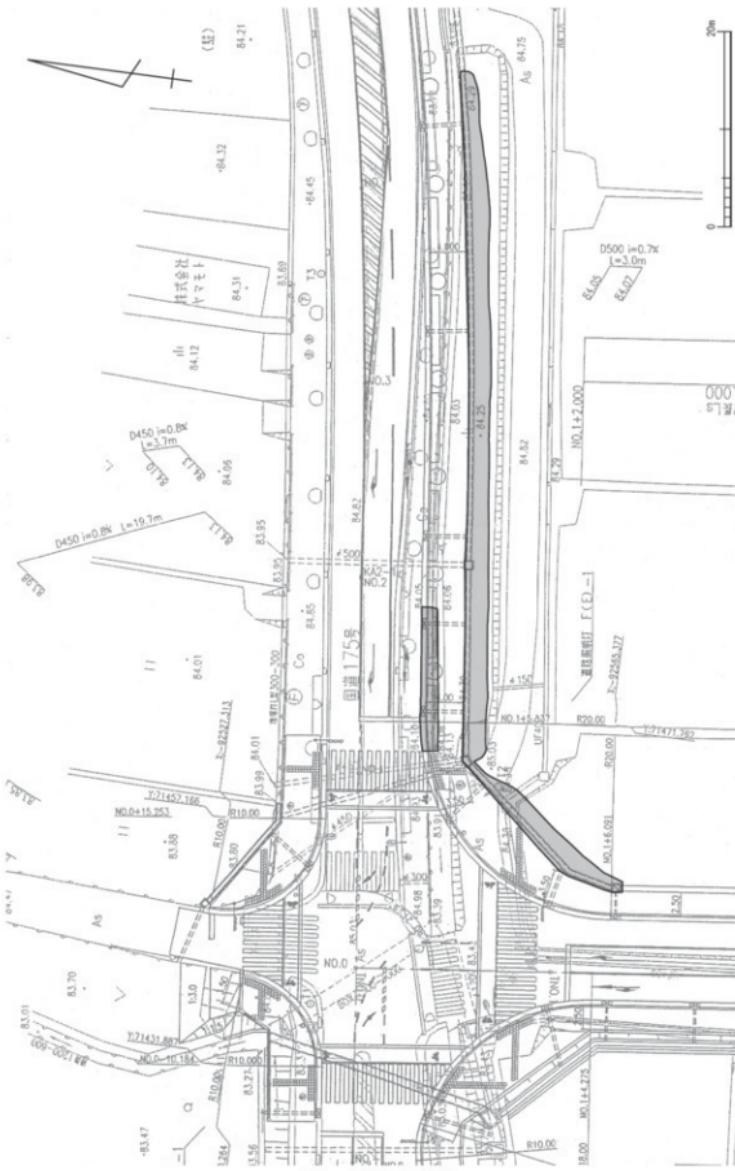


図2 調査区の位置

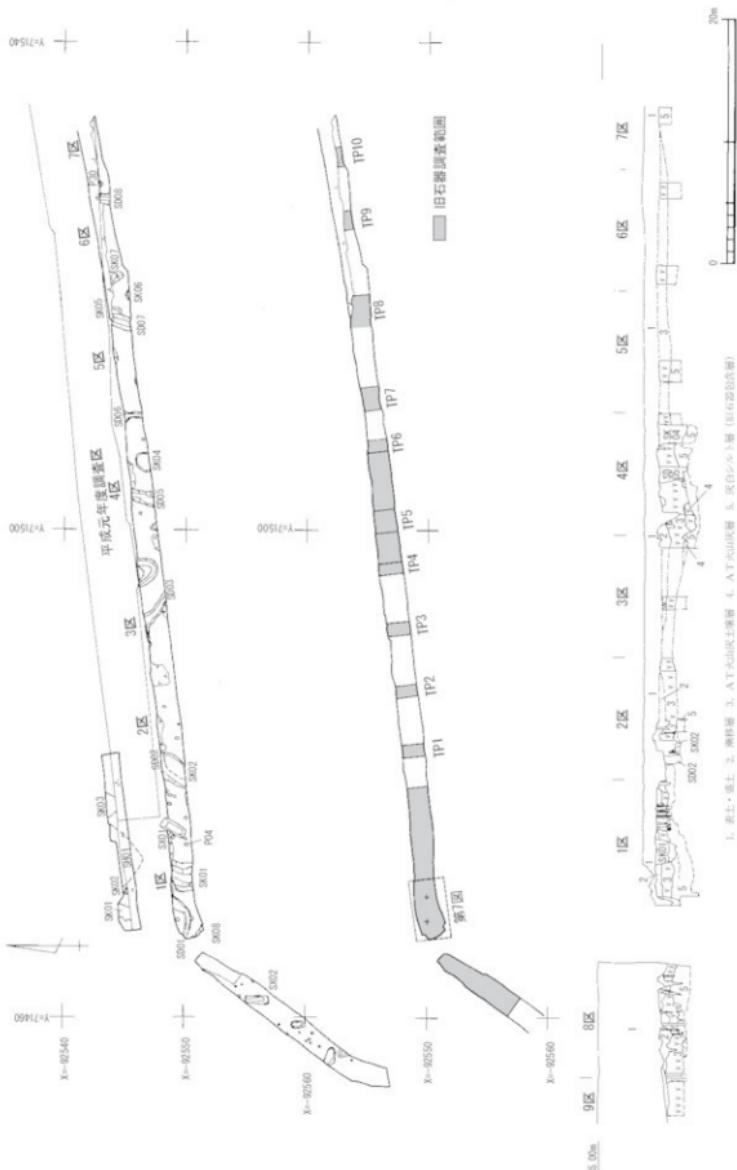


図3 調査区平面図・断面図

3章 本発掘調査（弥生時代）の成果

1節 遺構

【1~9区】

調査区のほぼ全域に広がり、木棺墓2基、土坑、溝、ビットが検出された。

木棺墓（SX01・02）は調査区の西寄りにあり、SX01は棺痕跡が明瞭であったが、SX02は不明瞭であった。そのため平面形や埋土の堆積状況などから木棺墓と判断した。周辺の調査では周溝墓が発見されており、これらの木棺墓も周溝墓の主体部となるものかもしれない。

溝および土坑は比較的深く掘り込まれたものが多い。SD01は深さ10cmほどの浅い溝であるが、屈曲することから方形周溝墓の一部である可能性が高い。SD03は幅約70cm、深さ約30cmの溝で、埋土上部から弥生時代中期の土器が2個体（P1・P2）出土した。

【10区】

調査対象地は歩道部分を道路に拡張する部分である。道路工事の影響は遺構面にまで及ばないため、遺構の検出を行って遺存状況のみを確認し、遺構内の掘削は行わなかった。

調査区の南半部は道路のコンクリート擁壁により遺構面は損壊されており、遺構が検出されたのは調査区の北半部に限られる。

検出された遺構は竪穴住居跡1棟（SH01）、土坑3基（SK01～03）である。

SH01は一辺3.5m以上の方形竪穴住居跡と考えられる。埋土には土器片が認められる。

SK01は幅1mの土坑もしくは溝と考えられる。埋土には土器片は認められない。

SK02は径70cm以上の円形もしくは稍円形の土坑と考えられる。埋土には土器片は認められない。

SK03は幅1.7mの土坑もしくは溝と考えられる。埋土には土器片は認められない。

2節 遺物

土器は6点図化した。P1はⅢ様式の壺で、SD03（およびP04）から出土した。P2もⅢ様式の壺で、P04から出土している。P3はⅢ様式の壺の口縁部である。P4はⅢ様式の壺上半部で、SK01から出土した。P5はⅢ様式の壺底部で、SD05からの出土である。P6もⅢ様式の壺底部で、SK01およびSK02から出土した。また、図化は出来なかったが、写真にて報告するP7～P11はⅡ様式に属すると考える土器片で、P10のみ壺、あとのが全ては壺である。P12～P16はⅢ様式に属する土器片で、P12は壺、P15・16は壺、P13・14は壺又は壺の破片である。P17はⅣ様式に属する壺の破片である。石器は2点図化した。YS1・2はともに粘板岩製の石包丁未製品である。

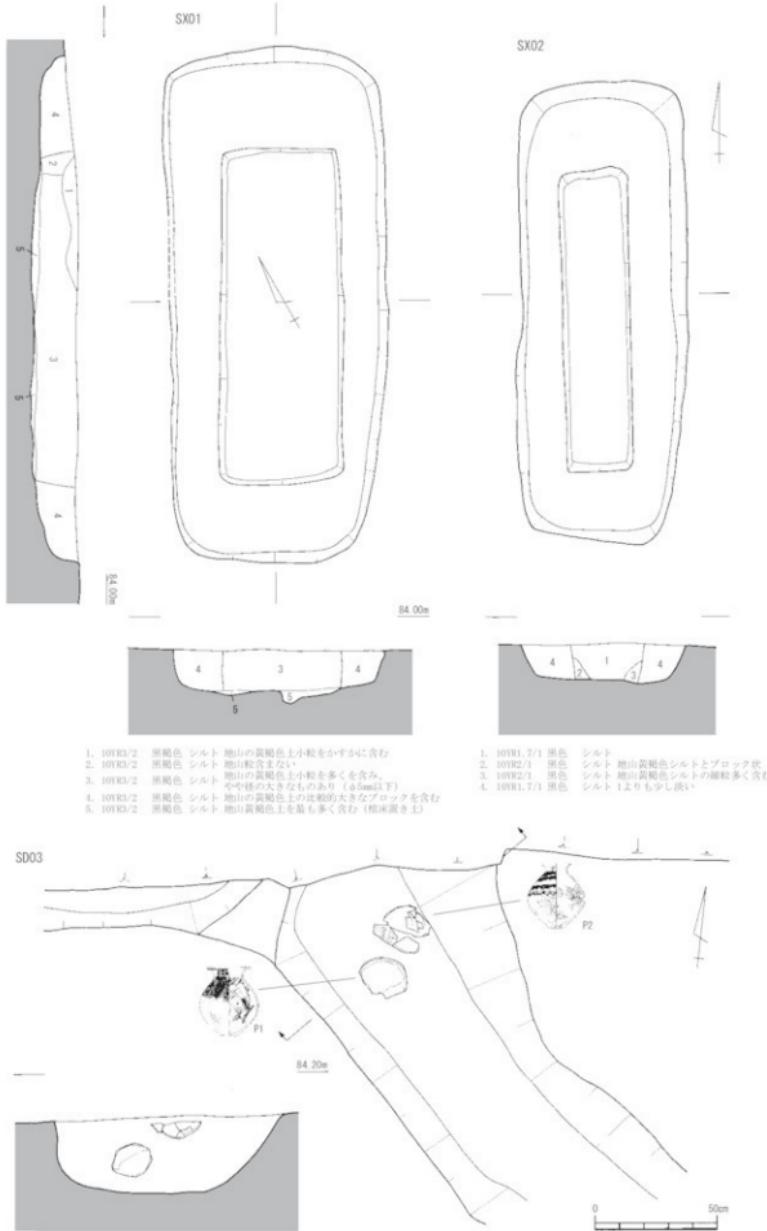


図4 弥生時代の遺構

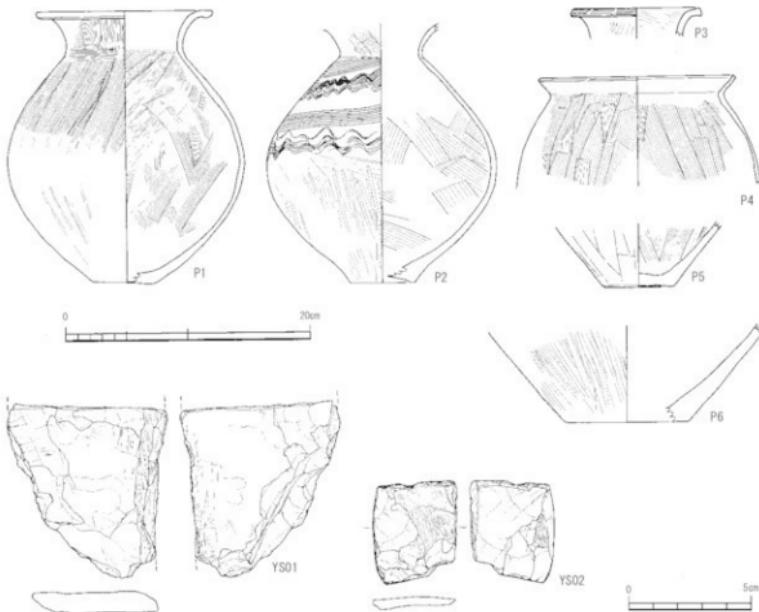


図5 弥生時代の遺物

表1 遺物観察表1(弥生時代)

報告番号	排図番号	写真図版番号	種別	器種	法量(cm)			残存		
					口径	器高	底径	口縁	底	他
P 1	図5	写真図版13	弥生Ⅲ様式	壺	(12.6)	(22.35)	4.65	わざか	完	
P 2	図5	写真図版13	弥生Ⅲ様式	壺	-	(21.2)	(5.3)	-	少々	体部1/2
P 3	図5	写真図版14	弥生Ⅲ様式	壺	10.25	(2.5)	-	1/2強	-	
P 4	図5	写真図版14	弥生Ⅲ様式	壺	(15.6)	(9.05)	-	1/8	-	
P 5	図5	写真図版14	弥生Ⅲ様式	壺底部	-	(5.3)	(5.6)	-	1/2	-
P 6	図5	写真図版14	弥生Ⅲ様式	壺底部	-	(8.0)	(10.05)	-	1/4弱	
P 7	-	写真図版14	弥生Ⅱ様式	壺				若干	-	-
P 8	-	写真図版14	弥生Ⅱ様式	壺				-	-	体部わざか
P 9	-	写真図版14	弥生Ⅱ様式	壺				-	-	わざか
P 10	-	写真図版14	弥生Ⅱ様式	甕				若干	-	-
P 11	-	写真図版14	弥生Ⅱ様式	壺				-	-	体部わざか
P 12	-	写真図版14	弥生Ⅲ様式	甕				わざか	-	体部わざか
P 13	-	写真図版14	弥生Ⅲ様式	壺又は甕				-	-	わざか
P 14	-	写真図版14	弥生Ⅲ様式	壺又は甕				-	-	体部わざか
P 15	-	写真図版14	弥生Ⅲ様式	壺				-	-	体部わざか
P 16	-	写真図版14	弥生Ⅲ様式	壺				-	-	体部わざか
P 17	-	写真図版14	弥生Ⅳ様式	甕				わざか	-	-
報告番号	排図番号	写真図版番号	石材	器種	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)		
YS 01	図5	写真図版15	粘板岩	石包丁 未製品	72.1	65.8	9.2	53.7		
YS 02	図5	写真図版15	粘板岩	石包丁 未製品	42	35	5	9.1		

4章 本発掘調査（旧石器時代）の成果

1節 出土状況

【1~9区】

1区：AT火山灰層の下位、約10~25cmの間で石器が出土した。石器は1区中央南壁際に集中度の高い部分があり、全体として南半に分布が偏っている。調査区の南側にも続いていると考えられ、1つの石器ブロックとして理解しておきたい。出土位置を記録して取り上げた石器は約60点であるが、周辺の土壤の水洗によって100点ほどのチップが回収できた。

石器の中には明瞭な製品は含まれておらず、チャート製の剥片やチップと若干の石核で構成される。サスカイトは水洗選別で2点の剥片が出土している。注目される遺物としては、集中部から東に離れた位置から出土した2点のチャート原石がある。挙大より少し小さな破砕で、縦面の状況から比較的良質の石材と考えられる。

製品が含まれておらず、チップが集中して多数出土していることから、石器製作に関連するブロックと考えられる。

8区：AT火山灰層の下位、約10cmの深さからチャート製剥片が2点、それぞれ単独で出土した。1区の石器ブロックの周辺部に相当すると考えられるが、AT火山灰層直下の標高が次第に低くなっていることから、さらに深い位置に石器ブロックが存在する可能性もある。

4区：4区ではAT火山灰層直下の標高が周辺より低く、崖地状の地形となっている。土壤化したAT層の下部には、土壤化の進行していない純粋なAT層が部分的に残存していた。

TP5でナイフ形石器と剥片が各1点出土したことから、シルト層を掘削して石器ブロックの有無を調査したが、新たな石器は出土しなかった。先に出土した2点の石器は単独出土と考えられる。

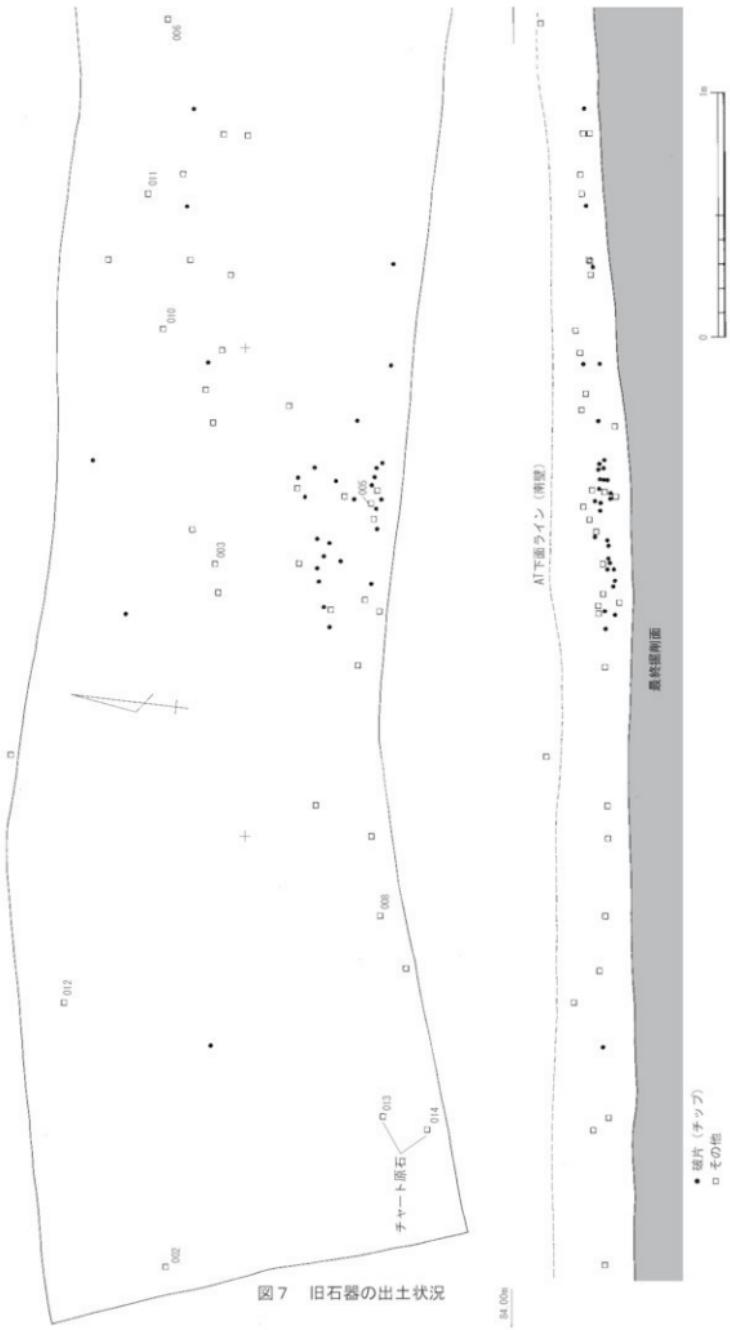
2節 遺物

出土した石器のうち、12点図化した。001は2個縁加工のナイフ形石器で、チャート製の縱長剥片を素材とし、左側縁は腹面側から、右側縁は背面側からの側縁加工である。なお、先端部は欠損しているが、素材剥片の打面は節理面で、打面・バルブとも残っている。002はチャート製の使用痕のある剥片である。

003~010は剥片で、010のみ凝灰岩製、あとは全てチャート製である。011・012はチャート製の石核である。013・014はチャート原石であり、遺跡の東側を北流する竹田川川床から遺跡内に持ち込まれたものであろう。



図6 旧石器チャート原石



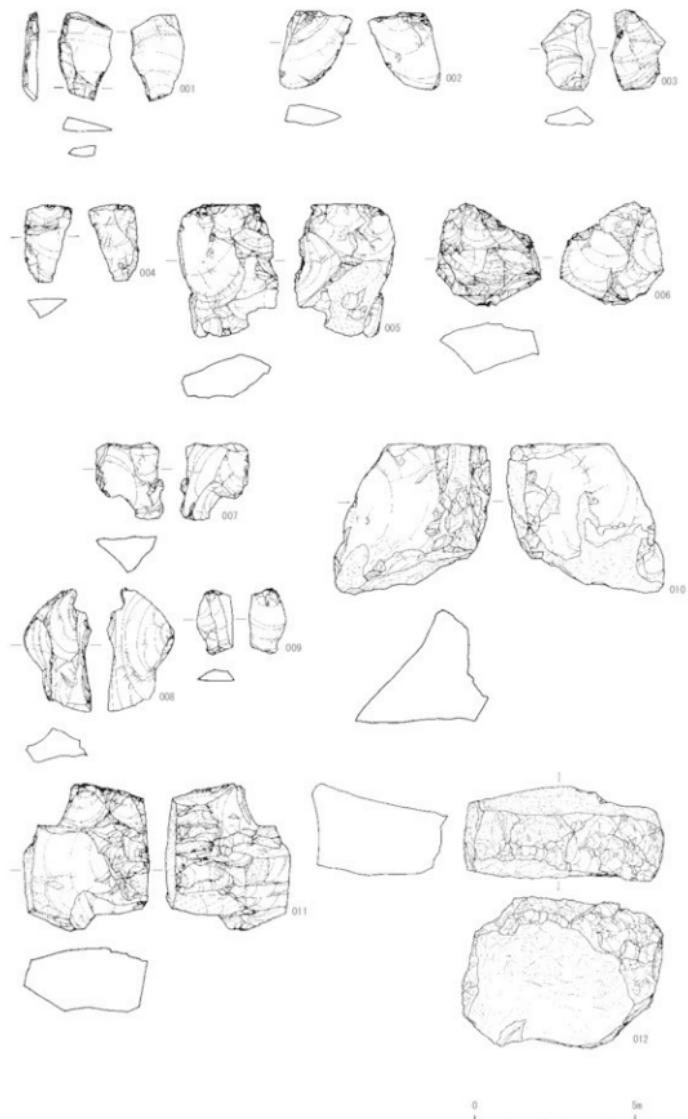


図8 旧石器時代の遺物

表2 遺物観察表2（旧石器時代）

報告番号	器種	石材	地区	土層	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	備考 (取り上げNo.)
001	KN	チャート	4区 TP5	AT直下付近(縦混シルト)	27	17	5.5	2.1	
002	UF	チャート	1区	旧石器第1次掘削	24.4	22.6	6.6	3.0	S21
003	FL	チャート	1区	旧石器第1次掘削	25.2	16.9	6.6	1.8	S7
004	FL	チャート	8区	シルト	24.5	15.3	6.2	1.5	
005	FL	チャート	1区	旧石器第1次掘削	41.2	31.5	14.7	13.9	S10
006	FL	チャート	1区	旧石器第1次掘削	32.3	33.1	18.1	14.1	S1
007	FL	チャート	4区 TP5	AT直下(縦混シルト)	23.6	21.4	14.7	4.7	
008	FL	チャート	1区	旧石器第1次掘削	38.4	20.9	12.4	6.0	S17
009	FL	チャート	8区	AT落ち込み内	20.3	11.4	4.7	0.8	
010	FL	凝灰岩	1区	旧石器第1次掘削	46.7	49.3	38.0	60.3	S2
011	CR	チャート	1区	旧石器第2次掘削	30.1	62.3	47.2	103.8	S49
012	CR	チャート	1区	旧石器第1次掘削	45.9	38.8	33.5	40.3	S19
013	RM	チャート	1区	旧石器第1次掘削	93	76	19	220	S22
014	RM	チャート	1区	旧石器第1次掘削	68	60	32	142	S23

KN : ナイフ形石器 UF : 使用痕剥片 FL : 剥片 CR : 石核 RM : 原石

5章 まとめ

今回の調査区は七日市遺跡の中では北寄りに位置し、地形分類の上では更新世の埋没段丘Ⅳ上に立地しているが、1区及び8~10区は支流性扇状地上に立地すると考えられる。

調査区近辺のこれまでの調査では、弥生時代中期には周溝墓群が、終末期~古墳時代前期には堅穴住跡などの遺構が広がっていることが判明している。今回の調査で検出された堅穴住跡や木棺墓は、こうした居住域や墓域がさらに北側に展開していることを裏付けるものである。

旧石器時代では平成元年度の調査で二つの石器ブロックが検出されている。2区の北側にあたり、1区の石器ブロックを含めて一つのブロック群を構成していたと考えられる。今後、整理作業を行う中で、接合資料や同一母岩資料の検討を行い、相互の関係を明らかにしてゆく必要がある。

写真図版



調査前（東から）



1～7区 全景（東から）



1 ~ 7 区 弥生時代の調査 全景（西から）



1区 S X O 1 木棺検出（南西から）



1区 S X O 1 木棺完掘（南西から）



1区 SKO 1断面（東から）



4区 SD05検出（南から）



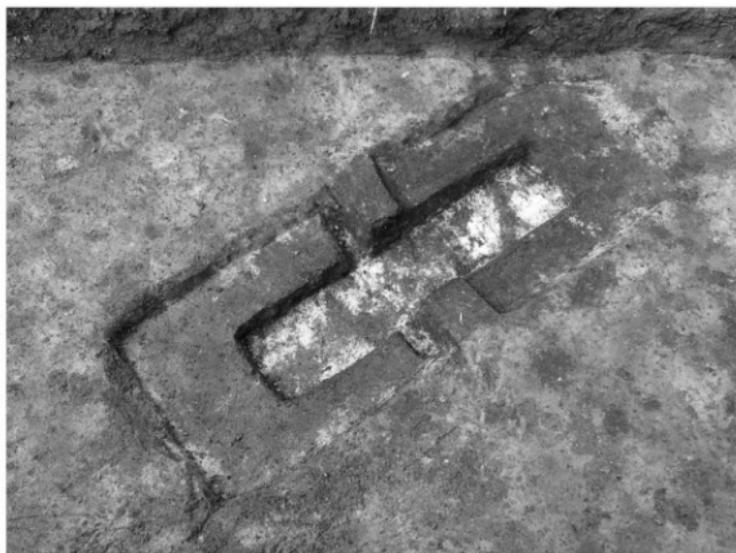
3区 SD03 (南から)



3区 SD03 弥生土器 (P1・P2 西から)



8・9区 全景（北東から）



8区 SXO2木棺完堀（南東から）



10区 SHO 1 検出（東から）



10区 SKO 3 検出（南から）



1 区 旧石器出土（東から）



1 区 旧石器出土（西から）



1区 旧石器出土（西から）



1区 旧石器出土（北西から）



1区 旧石器出土（報告No.O 13・014 北から）



1区 旧石器出土第2次（東から）



8 区 旧石器時代調査完堀（東から）



4 区 旧石器時代調査完堀（北東から）



TP 03 土層断面（北から）



TP 05 土層断面（西から）

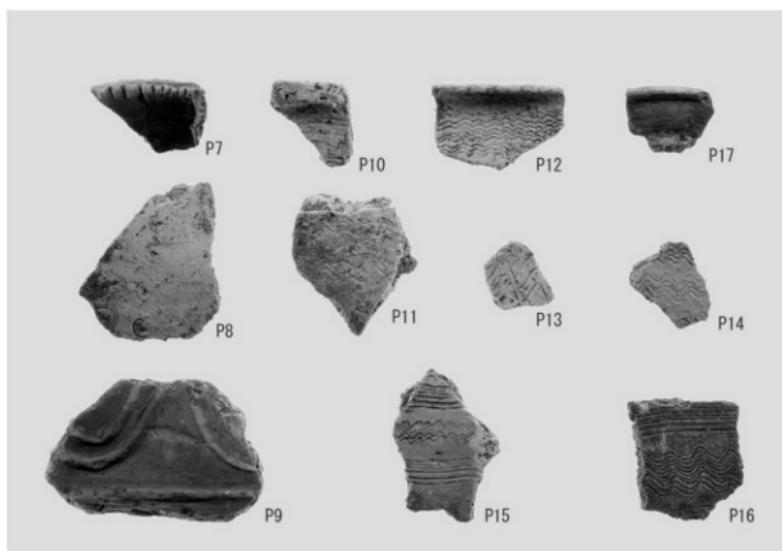
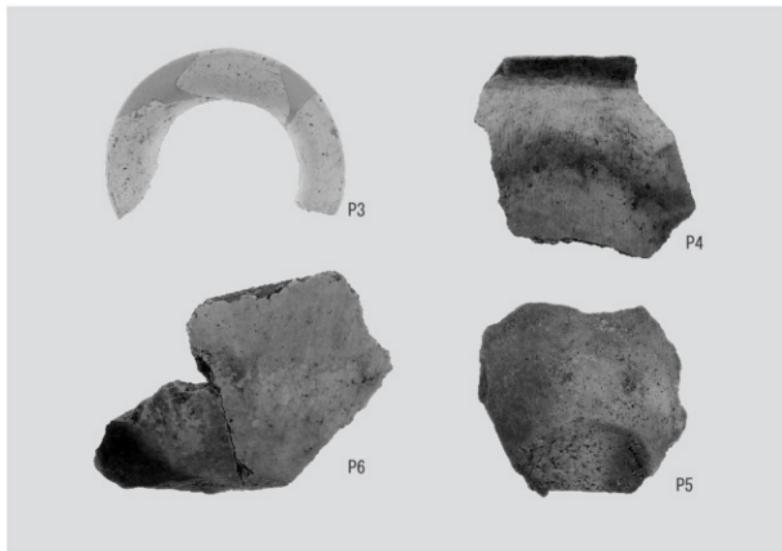


P1

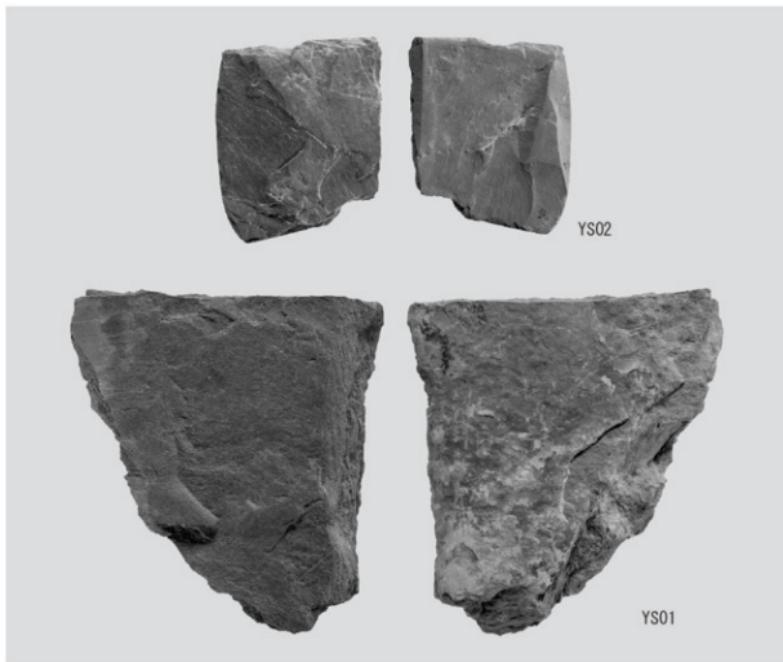


P2

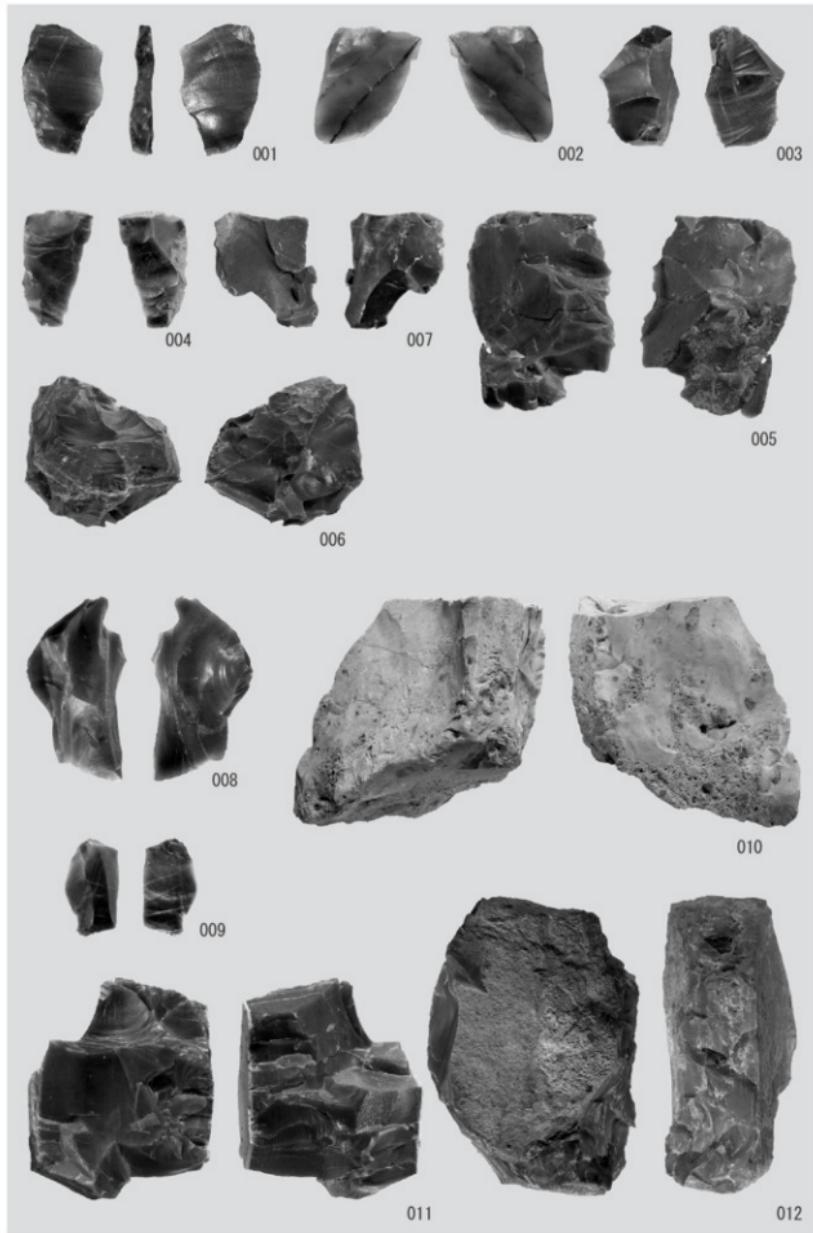
弥生時代の遺物 1



弥生時代の遺物 2



弥生時代の遺物 3



旧石器時代の遺物

報告書抄録

よみがな	なぬかいちいせき 4
書名	七日市遺跡IV
副書名	(国) 175号特定交通安全施設等整備事業に伴う発掘調査報告書
シリーズ名	兵庫県文化財調査報告
シリーズ番号	第420冊
編著者名	藤田淳・山本誠
編集機関	兵庫県立考古博物館
所在地	〒675-0142 加古郡播磨町大中1-1-1 Tel 079-437-5589
発行年月日	西暦2012年(平成24年)3月26日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	調査番号					
なぬかいちいせき 七日市遺跡	ひょうごけん たんばしかず がちょうなぬ かいち 兵庫県丹波市 春日町七日市	28223	2004215	35度09分59秒	135度06分57秒	本発掘調査 20040927 ～ 20041116	200m ²	(国) 175 号特定交通安全 施設等整備 事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な構造	主な物語	特項事記
七日市遺跡	集落跡	弥生時代	木棺墓・溝	弥生土器	弥生Ⅲ様式が中心。 住居跡1棟、木棺墓2基ほか
		旧石器時代	石器ブロック	ナイフ形石器	AT下位から石器出土。 第Ⅲ文化層に対応。

丹波市

兵庫県文化財調査報告 第 420 号

七日市遺跡IV

(国) 175号特定交通安全施設等整備事業に伴う発掘調査報告書

平成 24 (2012) 年 3 月 26 日発行

編 集 兵庫県立考古博物館

〒 675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中 1 丁目 1 番 1 号

Tel. 079-437-5589

発 行 兵庫県教育委員会

〒 650-8567 神戸市中央区下山手通 5 丁目 10 番 1 号

印 刷 富士高速印刷株式会社

